

大野木グラウンドワークだより

平成 21 年 2 月 11 日 発行 NO 29

発行責任者 藤田 博、伊藤 晋

冬の高気圧下、快晴。19+1 の 20 名の参加のもとがんばって大きな成果となりました。段取りとして炭窯の最終局面にパワー投入。が、ホダ木への植菌も時期ですので、急きよ女性陣からの応援を求めることになりました。

それから、炭材調達に深谷へ軽トラ 2 台が出向き、都合 3 班編成で 12 時過ぎまで目一杯の作業となりました。

ホダ木への駒打ちはしいたけ、ひらたけ、なめこの 3 種類、森の奥に井桁に高く積み上げられました。

炭窯は次の天井打ちに向けていよいよ炭材が運び込まれ、窯のなかに整然と炭材が並んだ状態にまでなりました。

長浜から広部さんが親子で参加してくれました。若いひとがこども連れで参加してくれますと、活気となごみが漂い一段とモチベーションがあがります。嬉しい限りです。

2 月 8 日という冬の作業としては納得できる最高の出来高となりました。

お昼はいつものことながら女性陣の工夫の献立で和やかな昼食会になりました。

かわいい「翔ちゃん」が片言で「どうじょ」とご飯をお給仕してくれて、一同のアイドルです。

特に「炊き込みご飯」はおいしくて皆さんお代わりで、お腹一杯になり満足の顔が広がりました。

炭窯改修は 1 月 14 日にスタートし、天候に恵まれ作業はハードですから原則 9 時から 11 時ということで週に 2 回ペースで都合のつく方をお願いしてやってきました。

2 月 8 日現在：延べ 9 日間、59 人前のパワーを結集いただいた成果が厚み約 50 センチの頑丈な窯となってきました。いよいよ天井に着手します。

今後天井打ちを行い、最初の火入れ炭焼きで窯が焼成され完成します。

これから達人の指導のもと最も重要な局面に挑戦します。

各位のご協力のほどよろしく願いいたします。

経過報告

1月14日(水) 8.30~11.00

炭窯修理に樋口、伊藤、水野、小澤克、藤田の5名で赤土と石灰を混ぜレフトサイド30センチまで立ち上げました。

その後、中嶋さん宅にて清水さん特製の「栃がゆ」をいただきました。ホクホクで身体の中まで温まりゆっくりさせていただきました。中嶋さんご夫妻のおもてなしに感謝。

1月15日 長浜の湖北地域振興局で

平成20年度みんなで始めよう森づくり活動公募事業の意見交換会に清水、樋口、水野、藤田の4名が参加いたしました。

9グループが5分ずつの活動報告、その後意見交換が行われました。

どこも竹の処理に困っておられること、とくに伐採後に生えてくる笹竹をいつまで刈ればいいのか、やはり地下茎は10年かかるとのこと。

高齢化しているなかでの活動、緑の少年団との連携、小学校の総合学習の場として、ヤギの放牧、春と秋のイベント、竹炭の工夫等々について伺いました。

中でも炭の活用方法として、くず炭の肥料化、ご飯の中に、ポット、風呂、冷蔵庫、から下駄箱。最近 床下が注目という。リフォームの際に床下に炭があるかどうかで、その家のもちが解るそうです。

そして、「炭情報の連携から何かを今後探れるのでは」という貴重な意見も出ました。

また、21年度事業のヒントも少しいただきました。

余呉町緑友会、河毛竹炭焼遊倶楽部、湖北町サンデー林業愛林会、ほっこりおせんどさん山里の会、ふるさとのせせらぎを守る会、丁野区里山づくり委員会、中野森林整備委員会、伊部ひばり山活用グループ、大野木グラウンドワーク協会の9団体でした。

1月20日(火)

くもり、ファイヤーサークルで古竹、古材の焚き火

水野、宮崎隆、伊藤、前川、藤田の5人。赤土と石灰をこね、先日のレフトサイドに上乘せ叩き込み再開です。そこへ北澤 武さんと中嶋さんが来ていただき心臓部である煙突を囲む壁の立ち上げ方式が確定。これで作業は本格的に進行することになりました。

土こねと叩きという土なぶりは重労働ですから9時から11時で終了。

1月21日(水)

天気はうすくもりから晴れてきました。もう春の気配かな。

樋口、伊藤、水野、宮崎、中嶋、藤田の6人でいよいよ右側にも着手。本日も11時終了としましたが、大きな成果があがりました。

赤土を混ぜる人、たたきこみをする人、それぞれに汗をかき、冬といえどやりがいのあるいい運動です。明日も来週も頑張ろうと思います。

1月22日(木)

天気はくもり、おかげさまでこの3日間天気に恵まれ作業は順調に推移。

参加者は伊藤、樋口、水野、藤田、吉田善、前川、宮崎隆、中嶋、北澤の9人。

「冬土なぶりのえらさの中、汗と笑顔の満足顔」字数配慮全くなし。

1月28日

誰が決めたんやこの日取り、本日 冬晴れの快晴なり。

伊藤、水野、藤田、吉田、北澤、樋口、中嶋の7名。奥の煙突部分は完了。両サイドが均一に約半分まで立ち上がってきました。

1月29日

天気はまたまた晴れ、今日は16度という小春日和。

前川、樋口、水野、伊藤、藤田、宮崎、中嶋の7人の方、継続する力でここまで窯は立ち上がってきました。煙突のレンガ抜きですが土幅がありますから見当つけても、固く叩き込まれていますから掘り出しが大変。中嶋さんが根気に作業してくださり、めでたく吸い口を当てレンガ抜きが成功しました。しばし火をつけて吸い込み確認、煙突から勢いよく煙が出て煙突工事の完成です。

晋さんと大ちゃんが深谷へ詰め物材を採集に出かけてくれて、軽トラ一杯の材料を調達してくれました。

次回は2月2日ということで散会。

1月30日

「ふるさと・水と土指導員等研修会」一行40名が大野木公民館に9時50分に到着。

この研修会は滋賀県農政水産部農村振興課が「地域資源の発掘と活力あるまちづくり」を目指して開催されているもので、大野木グラウンドワークの取り組みについて現地研修にバス2台で来られたものである。

公民館においてパワーポイントによる説明を行い、わが女性陣による「ゆず茶、甘酒、」の接待。お土産に藤田洋子さんお手製の「布のティッシュ入れ」が渡され、皆さん大変喜ば

れ、再びバスにて政所夢塾公園へ。天気予報は雨でしたが幸いにもくもり状態で現場も視察いただけ、炭窯の修復状況なりを熱心にご覧になり 10 時過ぎお帰りになりました。

午後、米原文産会館にて「都市・農村交流シンポジウム」が開催され清水、樋口、小澤、藤田の 4 名が参加いたしました。

東洋大学 社会学科 教授 青木辰司 氏の「人が輝く、地域が輝く、心が広がるグリーン・ツーリズムの魅力と魔力」と題しての基調講演。

グリーンツーリズムとは秘密のもの。予測不可能なハプニング体験、非日常の空間を楽しむこと。交流からシナジー効果（相乗効果）とコラボレーション（協働）で何かを作り上げる、人を巻き込むことで、1~2 時間、半日でなく四泊五日くらいのワーキングホリデーなどが理想という。

人という原石を外と交流することで磨いていく。

クオリティ・オブ・ライフ「最高の生涯」を完成することに気付く。

グリーンとは「地域再生」。

小規模、素朴な（Small is beautiful.）こそ「最高の生活の質」。

手を振ってくれる田舎。

大野木 GW も小さな活動ですが気持ちは最高にクオリティです。

これから大野木グラウンドワークに来られたお客さんにはがんばって手を振りたいと思います。

1 月 31 日（土）

ベルホール 310 で学校支援地域本部事業成果発表会がありました。

地域全体で学校教育を支援する文部科学省の事業で米原市では「子どもの読書活動支援」に特化して事業を行うというもので、昨年 10 月からの成果が発表されました。

基調講演では佛教大学の白石克己 教授が読書は言葉と実物をつなぐ間接経験として大切なものであり、学校支援地域本部の大きな役割として子どもたちは学校だけでなく社会人の応援があつてこそ育っていくことを強調されておられました。

先生とボランティアのつなぎ役としてのコーディネーターとボランティアの方の対談。

小学校 2 年生から中学 2 年までの 6 人の読書感想文の発表は見事で思わずうなりました。

次にフリーでお話を聞かせるストーリーテリングと朗読がボランティアの方々から実演され大きな感動をうけました。

是非この運動が広がっていくことを願うばかりであります。

2月2日(月)

快晴、伊藤、藤田、北澤、樋口、中嶋の5人
土こね2人、つき叩き3人 交代要員なしでフル活動
ほんとにごくろうさまでした。

2月5日(木)

快晴、北澤、伊藤、樋口、藤田、水野、小澤、宮崎、中嶋、吉田9人。
何とすばらしい春日和か、大勢の参加を得て裏側に足場を作り、奥の土だまりオープン土こね、運び、たたきと流れ作業、すぐに汗が噴出してきます。
ちょうど休憩時に佳子さんが「さつまいものふかし」を届けてくださいました。
両サイドがようやく天まできました。そこで健さんの指揮のもと両サイドの削りが始まり、次回からは木詰めから天井うちに～後2回くらいで完成に近づくことになるのでは・・

会員寄稿

味噌つき

1月23日、営農の女性陣 中嶋美智子さん、西秋八重子さん、西川はつえさん、清水幸子さんに味噌つきを教えていただきました。

営農さんの大豆を1斗5升分けていただき各自が家で炊いてガスケットの社員クラブへ8時ころに持ち寄り。(豆焚きでいろいろあったみたいです)

西秋八重子さんに麴を2斗出していただきました。(麴の出し方は区報2月号)

若い時、家でもしていましたがもっぱら豆をミンチにする機械回しで終わってしまっていたので、どうするかわかりません。営農の女性さま頼りです。

麴1升、豆1升、塩700gの割合で均等に混ぜます。

樋口さんと伊藤さんが豆を電動ミキサーでつぶしてくださいます。

そこへ塩麴を混ぜ合わせて豆の煮汁を少し足して耳たぶ位のやわらかさにこねていきます。力が結構いります。

こぶし大に丸めてパンパンたたいて空気を抜き容器に叩き入れます。男性は迫力があります。

トウガラシ、南天の葉を上下に入れて塩重石をして出来上がりです。

大勢のお手伝いのおかげで11時に終了しました。

土用が過ぎれば食べられるそうです。楽しみです。

各自持参のおかずで楽しい昼食をいただきました。

営農さんにはいろいろのご指導ありがとうございました。

こんなに楽しい作業とおしゃべり、教えていただいたつながりを大事にしていきたいと思いました。どうぞこれからもよろしく願いいたします。

藤田光子

ご案内です

炭窯の裏から左側をご覧ください。少し離れたところの竹やぶの間に「みつふいーの小道」が見えます。両側は緑、道も緑、ずーっと奥に道は続いています。この道をどんどん進んで行くとうさぎの「みつふいー」がいます。

いま、みつふいーは冬ですからちよくちよく食べ物を探しに出てきます。すると、誰かにいきなり出会うことになります。

もし出会われたら、そーっとやさしく見守ってあげてください。きっと「みつふいー」にも家族がいて忙しいのでしょう、この豊かな森の可愛いこどもたちが春になれば生まれてきます。楽しみですね。

炭窯改修はこれまで9日間延べ59人の方々の汗で完成に向かっております。

いよいよ、天井うちが済みましたら待望の火入れ2日後の窯完成となります。

中学生の体験プログラムは教育委員会、学校長と順序を経て詰めております。

いまのところ日時は10月20日（火）学年は中体連、学校行事との兼ね合いから1年生とする。対象校は初年度でもあり柏原中学とする。

また、内容はローテーション方式で全てのこどもがすべての内容に触れる形の学習形式とするなど大体のフレームが見えてきました。今後担任の先生と詳細を詰めていきたいと考えております。

順次中身について皆様とご相談して学校側の事情も伺いながら成案を目指していきます。

2月20日頃の予定で（天気都合をみて）炭窯天井打ちを行います。朝から夕方まで一気に終日作業となります。交代しながら乗り切っていきたいと思っておりますのでお願いします。

次回は**3月8日**です

それまでに、できれば修復炭窯の「命名式」および初焚きを行いたいと考えています。

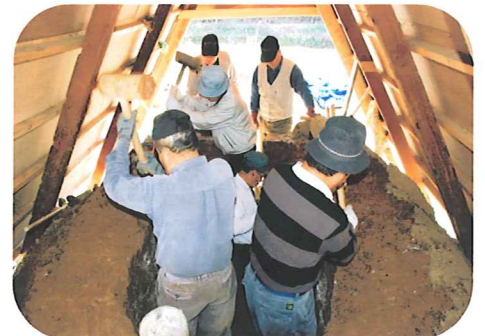
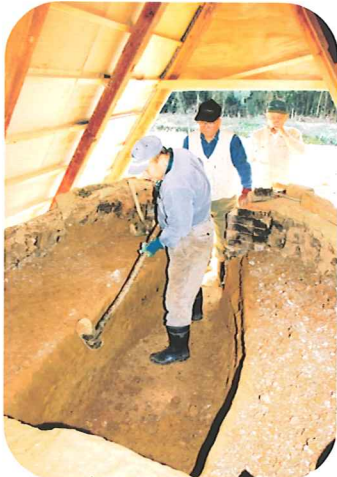
大野木グラウンドワークだより

NO29

2009年2月8日(日) 晴れ



1月30日(金)「ふるさと・水と土指導員研修会」が大野木グラウンドワーク協会、政所夢塾公園を訪問され現地研修が開催されました。



1月より炭窯修理が再会 1/14・20・21・22・28・29 2/2・5 延べ8日間臨時に作業をしました。
この間、大寒にもかかわらず雪国に雪のない暖かな日がつづき作業がはかどりました。

腕が痛くなる程に叩いて、叩いて、叩く

炭窯修理もまだ続きますご協力よろしく



女性の応援で森の中が明るくなりました

久しぶりに翔吾くんが来てくれた

今回は炭窯作りと椎茸菌の打ち込みでした



ドリルやチェーンソーの初体験も

椎茸の植菌も沢山出来ました

次回は3月8日です